

2022年度ミニ観察会 ー少人数でじっくり観察しようー 樹木の“形とくらし”観察

主催：NPO 法人自然観察大学 担当講師：小幡和男、飯島和子

鮮やかな新緑… 芽吹き、開花と、木々がダイナミックな動き
を見せる最高の季節に観察会を実施できました。

目立たない花にも受粉のための巧妙なつくりがあり、小さな冬
芽には成長の秘密が隠されています。

この観察会では3つの大きなテーマを設定しました。

- サクラの主要種を見分ける
- 雌雄のいろいろを観る
- 冬芽の展開を観る

好評の書籍『樹木博士入門』の著者が樹木観察の魅力を紹
介します。本来この観察会はこの本の発刊記念として2020年
に計画しましたが、新型コロナウイルス禍で延期となり、今回
やっと実現できたということになります。

話題ごとの担当講師はタイトルのあとに記しました。
なお、残念ながら担当講師のうち岩瀬徹先生はお休みとなりました。

※ このレポートで掲載した写真は『樹木博士入門』からの転載ならびに
NPO 法人自然観察大学およびその関係者のものです。(禁無断転載)



雄花をぶら下げたクヌギ

● クヌギとウバメガシ ーどんぐりの木の花の観察ー 小幡

集合場所付近でクヌギが雄花（雄花序）をぶら下げていました。

クヌギは落葉樹です。この日は花を観察するにはちょっと早い感じですが、薬が見えるところも
あります。雌花（雌花序）は1か所だけ観察できる場所があり、小さいので交替で観察しました。

ほかにクヌギでは、昨年受粉してできた小さなどんぐりを観察することができました。



クヌギの雄花序



クヌギの雌花序。ごく小さい



参考：2年目の秋のクヌギの果実

ウバメガシは常緑ですがクヌギに近縁です。ウバメガシの自然分布は三浦半島以西で、東京周辺では植栽されたものだけです。ここでは生け垣として小さく剪定されていますが、本来は高木になります。備長炭の材料としてもよく知られています。

ここではいま、新芽と雄花（雄花序）が観察できます。ところで、クヌギもウバメガシも、どんぐりは2年かかって成熟します。春の開花・受粉から冬を越して翌年の秋に成熟するので、正確には約1年半ですね。

いまは、1年経った小さなどんぐりを観察することができます。

どんぐりの木のなかまは雌雄同株^{しゅうどうしゅ}で、このように雄花序と雌花序を別々につけます。

どんぐりになるには、クヌギやウバメガシのような2年成熟型と、コナラやシラカシなど1年成熟型があります。



新芽が目立つウバメガシの生け垣



ウバメガシの雄花序



ウバメガシの雌花序。かなり小さい



ウバメガシの1年目の小さなどんぐり。後方は冬芽



参考:ウバメガシの2年目の秋のどんぐり

● アケビの雄花と雌花 飯島

植え込みにアケビが絡みついていた。花は開花中で多数見られ、観察にはちょうどいい時期です。

アケビ

アケビはつる植物で雌雄同株^{しゅうどうしゅ}です。ここではいま、雌花と雄花が見られます。

短枝から花序が垂れ下がっていますね。雌花は元の方に2,3個つき、雄花は先の方に数個ついています。



アケビ。5枚の小葉からなる掌状複葉



花卉のように見えるのはがくで、それぞれ 3 個ずつ、雄しべは 6 個、雌しべは 3~8 個ついているようです。雌しべは筒状で変わった形をしています。
長い柄を持つ葉は互生、5 枚の小葉からなる掌状複葉です。
秋には薄紫色の果実が見られること
でしょう。

アケビの雌花と雄花



ミツバアケビの雌花と雄花



ミツバアケビの葉



ゴヨウアケビの葉

ミツバアケビ

アケビの隣にはミツバアケビが見られます。アケビは同種間では結実しにくらしく、別種のミツバアケビが植えられたことと思います。ミツバアケビは 3 枚の小葉からなる掌状複葉を持ち、小葉の縁には波状の鋸歯が見られます。

花はアケビより濃い紫色。短枝から垂れ下がった花序には雌花と雄花が見られます。

ゴヨウアケビ（参考）

今回は見られませんでした。アケビとミツバアケビと一緒に見られるところに、ゴヨウアケビの見られることがあります。葉はアケビと同じ 5 枚の小葉をつける複葉ですが、小葉の縁にはミツバアケビのように波状の鋸歯が見られます。アケビとミツバアケビの自然交雑種といわれ、果実はつきにくいようです。



シロバナアケビ（参考）

観察会終了後に希望者だけで観察したときに、シロバナアケビがありました。

園芸品種といわれ、葉はアケビと同じ 5 枚の掌状複葉で、花は名前のように白。果実の色もアケビより白いようです。

● クスノキの葉の交代 飯島

公園にはクスノキが多数植栽されています。

この時期のクスノキは木全体が紅葉・黄葉しているのが遠くからでもよくわかります。木の下を歩くと、落ち葉が敷き詰められているようです。

常緑樹であるクスノキの葉の新旧交代の時期です。

近寄って見ると、枝先に赤味がかかった新葉が伸びて、その下の古い葉は、紅葉・黄葉しています。落葉した後も見られます。



クスノキの葉の交代。新葉と古い葉をみんなで観察

常緑樹というと落葉しないと思っている人も多いようですが、クスノキの葉は1~2年でほとんどの葉が交代するというのが観察できました。

● エノキの花 ー両性花と雄花ー 飯島

エノキでは新葉の展開と同時に開花が見られました。両性花と雄花がついています。

新しい枝の元の方に雄花がついて、両性花は先の方についています。

花が小さいのでルーペで見てください。両性花では、ふくらんだ子房と先端にブラシのような柱頭があるのが雌しべで、そのつけ根に雄しべがついています。雄しべは雄花も両性花も4個です。冬芽は非常に小さいですが、展開の時期には、その成長に驚かされます。



新葉と小さな花をびっしりつけたエノキ



参考：エノキの冬芽と展開をはじめた冬芽

→
エノキの新梢
枝の元のほうに雄
花があり、先のほうに両性花がある
小さな冬芽にこれ
だけのものが詰ま
っていたのだ



● クワ類の観察 小幡

クワ類にはヤマグワとマグワがあります。どちらも雌雄異株とされています。

ここにはマグワの雄株と雌株が隣り合わせにあり、ちょうどいま、開花がはじまっています。

マグワとヤマグワは、雌しべの花柱の長さで識別できることがポイントです。マグワの花柱の短いいわゆるV字形の雌しべが観察できました。ヤマグワは花柱が長くY字形です。

ところで、普通クワ類は雌雄異株ですが、まれに雌雄同株のことがあります。とくにマグワではその確率はけっこう高いようです。**(観察会終了後の延長戦で雌雄同株のヤマグワが観察できました)**



マグワの雄花序



マグワの雌花序の花柱はV字形



参考:ヤマグワの雌花序。花柱はY字形

● サクラのなかま 4 種の観察 小幡

この日のサクラ類の花は終わりかけでしたが、何とかぎりぎりまで4種のサクラ類を比較しながら観察することができました。オオシマザクラ、ソメイヨシノ、ヤマザクラ、ヤエベニシダレ(エドヒガンの栽培品種)の4種です。

サクラの観察のポイントは、がくの鋸歯、がくの形、がくと花柄の毛の有無、散形花序か散房花序か、葉の鋸歯、葉柄の毛の有無などです。

オオシマザクラでは、がくに鋸歯がある、がくと花柄に毛がない、散房花序、葉の鋸歯が針状に長い、葉柄に毛がないという特徴を観察しました。ソメイヨシノはエドヒガン(母方)とオオシマザクラ(父方)の雑種で、両親の特徴を受け継いで



ヤエベニシダレ(エドヒガンの栽培品種)の観察

いますが、エドヒガンの影響をより強く受けているようです。がくに鋸歯がある、がくと花柄に毛がある、散形花序、葉柄に毛があるという特徴を観察しました。

ヤマザクラは、ソメイヨシノの並木に混じって紛らわしく植えられていました。がくに鋸歯がない、がくと花柄に毛がない、散房花序、葉柄に毛がないという特徴を観察しました。

エドヒガンはここでは見当たりませんが、その系統を受け継ぐ栽培品種ヤエベニシダレが数本ありました。がくに鋸歯がある、がくと花柄に毛がある、花托筒が膨れてつぼ型になる、散形花序、葉柄に毛があるという特徴を観察しました。

一見似ていて区別が難しいサクラ類も、ポイントを見極めれば種を特定することができるということを実感していただけたと思います。



エドヒガンの特徴を受け継いだヤエベニシダレ

	ソメイヨシノ	エドヒガン	オオシマザクラ	ヤマザクラ
開花	葉の展開前	葉の展開前	葉の展開と同時に	葉の展開と同時に
花序	散形状（花序柄はほとんどない）	散形状（花序柄はほとんどない）	散房状（花序柄が長い）	散房状（花序柄がある）
花の径	3.5~4.5cm	2~2.5cm	3~5cm	2.5~3.5cm
花の色	淡紅色	白~淡紅色	白色	白色
花托筒の形	わずかにくびれた筒形	つぼ形	筒形	筒形
がく・花柄の毛	毛がやや多い	開出毛が密生	無毛	無毛
がく片の鋸歯	ある	ある	明瞭	全縁
葉の毛	表面無毛、裏面有毛	両面有毛	両面無毛	両面無毛
葉柄の毛	有毛	有毛	無毛	無毛
葉の鋸歯	重鋸歯	細かな単鋸歯	先が長く伸びた（芒状）重鋸歯	単鋸歯
冬芽の芽鱗	軟毛が密生	軟毛が密生	無毛	無毛

サクラ類4種の見分け方(『樹木博士入門』より抜粋)



『樹木博士入門』の関連ページ。主なサクラの見分け方がまとめられている

樹木観察には最適なシーズンで、話題もたくさんありました。紙面ではとても紹介しきれません。観察会は 12:30 にいったん終了しましたが、その後も有志による観察が続きました。以下簡単に紹介します。

サワラ

雌雄同株で雄花と雌花が別々につく。写真右端が雌花。
花の鱗片は、対生する葉と同じ並び方。



ソテツ

雌雄異株。花期は夏で、この日は赤い実(種子)を観察しました。



セイヨウハコヤナギ(ポプラ)

水元公園はポプラ並木で知られています。
雌雄異株で、日本では雄株のみ導入されたようです。

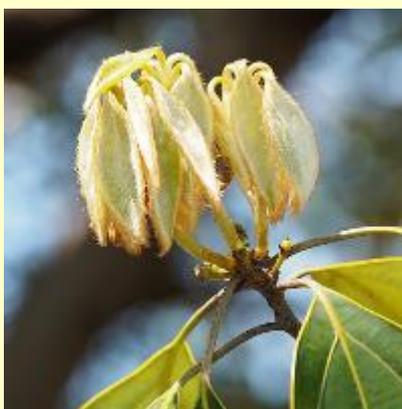


↑ 参考：雄花序（3月末撮影）

← セイヨウハコヤナギの並木

シロダモ

春のこの時期に新葉を展開します。白い軟らかい毛でおおわれたその姿がウサギの耳にとえられます。
ひこばえの新葉を低い位置で観察できました。



サイカチ

とげは茎(枝)の変形したもの。
 地表には前年の果実がたくさん落ちていました。
 長さ数十 cm の大きな果実ですが、種子が小さいのでびっくりでした。



サイカチのとげ



参考: 10 月末のサイカチの果実

モミジバズカケノキ

前年の果実が落下していて、冠毛のつく果実(瘦果)が観察できました。
 雌雄同株で雌花序と雄花序を別々につけます。この日は残念ながら花は見られませんでした。



たくさんの花が果実になった複合果



瘦果には冠毛がある

タブノキ

一つの冬芽に多数の花と葉を包む、代表的な混芽。
 この日はまさに冬芽が展開中でした。



一つの冬芽から多数の花と葉が出てくる



参考: 2 月末の大きな冬芽(混芽)

カヤとイヌガヤ

両種は似ていますが、ここでは並んで比較することができました。
 どちらも雌雄異株で、この日はイヌガヤの雌花の開花が観察できました。



カヤの葉は厚みがあり硬く、先端に触れると痛い



イヌガヤの葉は平面的で軟らかく、先端に触れても痛くない

イロハモミジ

雌雄同株で、雄花と両性花を一つの花序につけます。
 雄花が先で両性花は少し遅れるようで、この日観察できたのはほとんどが雄花でした。



イロハモミジの雄花



両性花。雄しべは小さい

番外編① ヒメウズ

樹木のテーマからはそれますが、ルート上にヒメウズの群落がありました。

花は小さいですが、よく見ると二重構造のようになっています。外側はがくで、花弁は内側の筒状の部分です。

ヒメウズは人里近くに見られませんが、地域によっては絶滅危惧種に指定されています。



番外編② コゴメイヌノフグリ

コゴメイヌノフグリは先日の木場公園での観察会でも観察できましたが、ここではオオイヌノフグリとフラサバソウと3種を比較して観察することができました。

写真の奥がコゴメイヌノフグリで、手前がフラサバソウ。その境目付近にある青紫の大きな花がオオイヌノフグリです。

参加いただいたみなさん、小幡先生、飯島先生、ありがとうございました。そしてお疲れさまでした。すべてが終わったのは午後3時。長時間のうえに、とても密度の濃い観察会でした。この紙面で詳しく紹介することはとてもできませんが、じつはすべて『樹木博士入門』に掲載されています。観察会でも、この本を参考に実物と見比べながら進めていたのです。興味のある方はぜひ『樹木博士入門』をご覧ください。

最後に、アンケートでご回答いただいた“好きな木”をまとめて紹介させていただきます。

ヤマザクラ、ウワミズザクラ、カツラなど多数…I.Hさん	スギ、ヒノキ、ブナ、サクラなど…O.Nさん
サクラ、ハナミズキ、コブシ…I.Mさん	針葉樹に関心がある…O.Rさん
エノキ、その他実の生る木全般…K.Hさん	ユリノキ、タイサンボクなどマгноリア属…S.Nさん
ナツツバキ…K.Mさん	オオシマザクラ(桜餅の原料)…T.Aさん
アケビ、ムベ…M.Kさん	サクラ類…W.Hさん
クスノキ、タイサンボク、ケヤキなど…M.Sさん	ブナ(立ち姿、保水機能)…Y.Mさん
キハダ、ホルトノキ、ギンモクセイ…O.Mさん	

撮影協力：大森仁一、樫聡 まとめ：大野透